

2004年の創設以来、日本内視鏡外科学会による技術認定制度は、若手外科医の登竜門となってきました。安全で確実な内視鏡外科手術を普及するための根幹となる制度として、わが国における「手術の質」の向上を促してきました。そればかりか、本制度に合格した技術認定医がもたらした「手術成績」の向上は、手術の質と手術成績の関連に関するさまざまなエビデンスとして世界に向け発信されてきました。これは、本制度に携わってきた多くの先達の努力の蓄積の賜物であり、その社会貢献の力強い証左といえましょう。日本内視鏡外科学会ではこの技術認定制度を、今後のさらなる発展・普及が予測されるロボット支援手術にも拡大し、より一層、公平公正で信頼される制度として運用していく方針です。

今回、技術認定医を目指す若手外科医への道標として「消化器・一般外科における技術認定制度を意識した内視鏡外科手術教育と手技の工夫」を企画いたしました。本臨時増刊号特集では、同制度開始の経緯・目的や審査基準の変遷とロボット支援手術を含む今後の方向性、エキスパートアドバイスから成る「技術認定制度」の総論に加え、同制度を意識した「内視鏡外科手術教育」「外科解剖」「手技の工夫」を、それぞれの領域を代表する皆さまにご執筆いただきました。

わが国の内視鏡外科手術は、世界に冠たる高いレベルを誇るとともに、AIが導入されるであろう今後の外科医療における貴重な知的財産にもなり得ると考えます。本臨時増刊号特集はその理念と実際を、次の世代に繋ぐ貴重な資料として歴史に残るものと確信しております。

2026年4月

「手術」前編集委員

北川 雄光

慶應義塾副学長・常任理事